



助成：東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクト



久保克彦「図案対象」(東京藝術大学所蔵)

コンサート・シンポジウム

戦争の時代の芸術

～戦争の記憶を語り継ぐ～

2020年12月6日(日)

14:00 開演 (13:00 開場)

東京藝術大学音楽学部内

第6ホール

主催：東京藝術大学演奏芸術センター、東京藝術大学音楽学部



©新津保 建秀

本日はコンサート・シンポジウム「戦争の時代の芸術」にご来場いただき誠に有難うございます。私が音楽学部長だった 2015 年夏、毎日新聞社と TBS テレビの戦後 70 年共同企画「千の証言」で、東京音楽学校から学徒出陣し出征先のフィリピンで非業の死を遂げた若き作曲家、村野弘二さんのオペラ「白狐」のアリアの自筆譜と音源がご遺族の手によって公開され、そのあまりにも素晴らしい作品と、戦争により志半ばで音楽家への道を絶たれたという事実が戦争の悲惨さ、愚かさを私たちに大きく語りかけてくれるきっかけとなりました。当時の東京音楽学校では村野さん同様に、多くの若き才能が戦争によってその前途を絶たれました。2017 年と 2018 年には「戦没学生のメッセージ」としてクラウドファンディングで多くの皆様のご賛同をいただき、戦時下の学生たちの作品の再演および CD 制作に繋げることが出来ました。

戦後 75 年の今年は、7 月に東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクトの助成によるコンサート・シンポジウム、そして 8 月に第 3 弾となるコンサート「里帰りコンサート in 旧奏楽堂」が企画されました。ところがコロナ禍の影響でどちらも延期となっていました。幸いコンサート・シンポジウムは本日実現の運びとなりました。（「里帰りコンサート」も来年の開催が決まりました）。

春先以来、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、演奏会やイベントが中止となり、とりわけ若い芸術家にとっては発表の機会が奪われ、学生にとってもキャンパス閉鎖など苦しい状況もありましたが、戦時下で繰り上げ卒業や学徒出陣を余儀なくされた当時の状況に思いを馳せることで、希望と期待を持ってこの苦境を乗り越えて欲しいと思います。「戦争の記憶を語り継ぐ」ことは、今後も途絶えることなく続けてゆかねばなりません。それが戦争の犠牲となられた方々に対し私たちが出来る唯一の供養ではないでしょうか。

東京藝術大学長 澤 和樹



昭和 18 年出陣学徒壮行会（大学史史料室所蔵）

「戦争の記憶」は継承されるか？

戦後 75 年が経過し、今や日本の全人口の 84%が「戦後世代」です（2019 年 10 月時点）。かく言う私も戦後生まれですが、本学が展開している「戦没学生のメッセージ」プロジェクトをプロデュースしています。これは 2017 年、東京音楽学校の二人の戦没学生の譜面が、ご遺族によって持ち込まれたことをきっかけに始まったプロジェクトで、音楽を手がかりとして、戦時中の学生たちの存在に光を当てようという活動です。

すでにその時点で、実体験として戦争（日中戦争から太平洋戦争に至る一連の戦争）を語れる方は少なくなっていました。そしてそう遠くない将来、戦争の実体験者は確実にいなくなります。記憶は個人の属性ですから、その人がいなくなれば失われます。その時「戦争の記憶」はどのように受け継がれていくのでしょうか。

もちろん、自身が実際の戦争体験者でなくとも、子どもや孫の世代が「語り部」となるケースもあるでしょう。あるいは、記念館や記念碑などの戦争関連施設が、その役割を担っていくのかもしれませんが。さらに放送や SNS などのメディアも、より重要性を増すことでしょう。いずれにしろ、私たち戦後生まれがその役目を担っていかなければならないのです。

本日のコンサート・シンポジウム「戦争の時代の芸術～戦争の記憶を語り継ぐ」が、そうしたことを考えるひとつのきっかけになればと考えています。

東京藝術大学名誉教授 大石 泰

戦争の記憶を繋ぐ糸

東京音楽学校における「学徒出陣」を記録や証言から掘り起こし、初めて体系的な調査を始めたのは 5 年前でした。これまでに戦没学生 4 名の作品を紹介していますが、新たに学生と教師 5 名の作品が確認されました。うち 1 名は慶應義塾大学の戦没学生で、他校の学生の作品は今回が初めてです。コンサート・シンポジウムの開催は、昨秋の東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクトの学内公募に応募して助成を頂き、実現するものです。戦後世代が戦没者の経験や戦争の記憶を真に理解し語り継ぐことは難しくとも、私達が彼らの音楽を聴き、彼らに思いを馳せることで、戦争の記憶を繋ぐ糸を紡ぐことはできるのではないのでしょうか。

戦没学生の楽譜や演奏映像を伝える場として、大学史史料室ホームページに開設した戦時音楽学生 Web アーカイブズ「声聴館」がありますが、Web も放置すれば風化します。「声聴館」が戦争の記憶を繋ぐ糸であるためには、彼らの音楽を実際に演奏し聴く場も必要なのです。

ご遺族、ご関係者のご厚意と熱意の後押しもありました。戸田盛忠の曲が載っている歌曲集を愛知県から大学までお届けくださった鈴木和美様、会ったことのない父・鈴木正三についてお話くださった日高三美子様、川崎優が恩師・鈴木 of 旋律にピアノ伴奏付けした編曲版の使用をご快諾くださった川崎雅司様と川崎雅哉様、岡田二郎の被曝を語ってくださった岡田晋輔様、東風平恵位の調査に史料室を訪れ、朗読劇の台本と演出を担当くださった富士川正美様、そして河野宗明の原資料の貸出をご快諾くださった都倉武之様に心よりお礼申し上げます。

東京藝術大学音楽学部大学史史料室非常勤講師 橋本 久美子

第1部 音楽に込めた想い～最近の大学史史料室の調査研究より

進行：大石 泰（東京藝術大学名誉教授）

報告者：橋本 久美子（東京藝術大学大学史史料室非常勤講師）

現在までに東京音楽学校在学中に入隊した学生は354名（女子697名）中76名、戦没者11名と判明した。在学生と卒業生を合わせた戦没者は30名、戦没とは別に原爆死、空襲死10名も確認される。また2017年より紹介してきた戦没学生4名とは別に、卒業生・教師を含む4名※の作曲が見つかった。[※東風平については第3部参照]

研究科在学中でピアニストとして活動開始していた戸田盛忠の歌曲《ふるさとの》は、戦後に出版された山田耕筰編《日本独唱曲集Ⅳ》（1951）に収められている。作曲年不明で、山田がこの作品をどのようにして知ったか、すでに戸田の戦没を知っていたか等は定かではない。

フルーティスト・鈴木正三の《春夏秋冬》は、ご息女によれば新婚の鈴木が戦地から妻・寿子さん（声楽部同級）に宛てた葉書1枚に1曲ずつ、計4枚に書かれ、作詞者は戦友との伝聞がある。2008年、鈴木門下のフルーティストで作曲家の川崎優（1924-2018）がピアノ伴奏を付けた。川崎自身も音楽学校在学中に召集され、ソ満国境で帰国命令を受け、「音感教育要員」として西宮の陸軍船舶部隊に配属され、病気療養中の広島で被爆した。

ヴァイオリニスト・岡田二郎の《春》と《泉石》は、乗杉嘉壽音楽学校長編『音楽』（1937）の第三巻と第四巻に収められている。『音楽』全五巻は師範学校、高等女学校および実業学校の音楽教科用にすべて新作で編集された。東京音楽学校管絃楽団員で海軍軍楽隊を指導した岡田の歌曲は、この依嘱のおかげで生まれたとも言えよう。

トーク① 戸田盛忠～新たに判明した東京音楽学校の戦没学生

M-1 戸田盛忠《ふるさとの》（三木露風詩）

テノール：中嶋 克彦／ピアノ：松岡 あさひ

トーク② 鈴木正三～中国戦線から愛妻に送った音楽の便り

M-2 鈴木正三《春夏秋冬》（杉田好夫詩／川崎優編曲）

ソプラノ：金持 亜実／ピアノ：松岡 あさひ

トーク③ 岡田二郎～原爆の犠牲となった東京音楽学校管絃楽部員

M-3 岡田二郎《春》（P.バルシュ詩／上田敏訳詩）

テノール：中嶋 克彦／ピアノ：松岡 あさひ

M-4 岡田二郎《泉石》（北原白秋詩）

ソプラノ：金持 亜実／バリトン：関口 直仁／ピアノ：松岡 あさひ



戸田 盛忠（とだ もりただ）

大正9（1920）年4月12日、東京生まれ。昭和13年、東京音楽学校予科入学（ピアノ）、永井進に師事。昭和16年12月、繰上げ卒業となり研究科に進む。昭和18年3月に休学し、昭和20年4月、第二十七師団支那駐屯歩兵第二聯隊に配属され、中華民国湖南省にて戦病死。兄の戸田邦雄は外交官のキャリアを持つ作曲家、妹の戸田敏子は声楽家で東京藝術大学名誉教授であった。



鈴木 正三（すずき しょうぞう）

大正4（1915）年4月1日、東京生まれ。昭和10年、東京音楽学校予科入学（フルート）。同校助教授となりフルート奏者、吹奏楽・管絃楽指揮者として活動。「フルート独奏曲集」（1940）、「フルーティスト小品集」（1943）を編集出版。昭和18年応召し、独立歩兵第四十七大隊に配属され、昭和20年8月23日、中華民国江蘇省武進県の野戦病院にて戦病死。



岡田 二郎（おかだ じろう）

明治38（1905）年7月12日、広島県生まれ。大正14年、東京音楽学校に入学しヴァイオリンを学ぶ。卒業後、同校助教授に就任し管絃楽部員としてマーラーやブルックナーの日本初演を行う。昭和20年3月退職、広島県立第二高等女学校に就職。原爆投下で爆心地から2.3キロの自宅は全壊・全焼、爆心地で恩師や親戚を探して被爆し8月25日に死亡。

第2部 戦争が奪った音楽～学徒出陣で戦死した慶應義塾生

報告者：都倉 武之（近代日本政治史・慶應義塾福澤研究センター准教授）

慶應義塾の文書館の役割を担う福澤研究センターでは、2013 年より慶應義塾関係者の戦争期の資料を収集し公開する試みを始動し、学徒出陣期の学生・生徒の手紙、ノート、写真、モノ資料等を重点的に集積、現在までに数千点の関係資料の寄贈を受けた。その中で自筆楽譜を残した学生はただ一人、河野宗明である。彼は、海軍の航空特攻によって戦死した者の一人であり、実は 60 点以上の手紙や軍隊時代の俳句集も残している。しかしそれらの中に、有名な戦没者遺稿集に見られるような激しい感情の起伏や葛藤、思想信条の発露などはほぼ皆無である。直接知る者によれば、彼は物静かでシャイな青年であった。換言すれば感情や思考を積極的に言語化しない青年であった。

河野宗明という具体的な存在を想起する時、直接的な自己表現の「ことば」を中心に戦没者を「評価」すると、彼の死がこぼれ落ちることに気付かされる。河野の存在は、当時戦争の中に生き、あるいは死を迎えた若者たちの多様性というごく当然の事実を提示し、彼らをステレオタイプ化しないことの重要性を気付かせてくれる。彼の豊富な資料を通してどのような視野が開けるだろうか、ということについて考えてみたい。



慶應義塾三田キャンパスにおける慰霊像・慰霊碑

（左上）平和来（へいわきたる）

朝倉文夫作。慶應関係戦没者のため 1932 年卒業生により 1957 年寄贈。台座には、戦時中の塾長であった小泉信三の「丘の上の平和なる日々に 征きて還らぬ人々を思ふ」という碑文が刻まれている。

（右上）還らざる友の碑

1998 年、学徒出陣による戦没者のため慶應義塾が建立。鳥居泰彦塾長（当時）の揮毫により「還らざる友よ／君の志はわれらが胸に生き／君の足音はわれらが学び舎に響き続けている」と碑文が刻まれている。



河野宗明が出撃した指宿の地

（左下）田良浜

（右下）指宿海軍航空基地哀惜の碑

「君は信じてくれるだろうか／この明るい穏やかな田良浜が かつて太平洋戦の末期 本土最南端の航空基地として 琉球弧の米艦隊に対決した日々を／拙劣の下駄ばき水上機に 爆弾と片道燃料を積み 見送る人となつたこの海から 萬感をこめて飛びたち 遂に還らなかった若き特別攻撃隊員が 八十二人にも達したことを／併せて敵機迎撃によって果てた百有余人の基地隊員との鎮魂を祈って ここに碑を捧ぐ」

M-5 河野宗明《秋草》（佐藤春夫詩）

テノール：中嶋 克彦／ピアノ：松岡 あさひ

トーク④ 河野宗明～特攻で戦死した慶應義塾のアマチュア作曲家

M-6 河野宗明《花守の歌》（石川啄木詩）

バリトン：関口 直仁／ピアノ：松岡 あさひ

M-7 河野宗明《雉よ》（横瀬夜雨詩）

バリトン：関口 直仁／ピアノ：松岡 あさひ



河野 宗明（このの むねあき）

大正 11（1922）年 6 月 20 日、東京生まれ。昭和 18 年 12 月、慶應義塾大学経済学部 2 年在学中に学徒出陣で海軍に入団。大井海軍航空隊を経て、昭和 20 年 3 月、北浦海軍航空隊の魁隊所属。同年 5 月 4 日、指宿海軍航空基地より特攻隊の一員として偵察機で出撃し、沖縄周辺で戦死。

第3部 生きる支えとなった音楽～沖縄戦で殉職した音楽教師

報告者：富士川 正美（演出家）

沖縄本島の南端、糸満市伊原にある「ひめゆりの塔」。慰霊碑の下に口を開けた真っ暗な穴の向こう、地下にひろがる洞窟の中で、今から 75 年前、多くの女学生たちと引率教員が、アメリカ軍の投じたガス弾によって命を失った。

その中のひとり、東風平恵位は着任してわずか 1 年半の、若い音楽の先生だった。宮古島に生まれ、少年時代から天才的な聴力を持っていたと言われる彼は、沖縄県師範学校で学んだ後、機織り職人だった父親の反対を押し切って上京、東京音楽学校師範科に見事合格する。声楽を木下保、ピアノを田中規矩士に師事。学校主催の演奏会には合唱団員として出演し、「山本元帥讃仰演奏会」など各地への演奏旅行にも参加した。昭和 18 年 9 月、戦時繰上げ卒業となり、当時すでに渡海が危険となっていた故郷への赴任を志願、沖縄師範学校女子部の音楽教師となった。

東風平が作曲した「別れの曲」^{うた}は、生徒が軍の陣地構築作業に動員されていた時、指揮官だった高射砲隊少尉・太田博（1921～45）が作った詩に曲をつけたもの。太田は福島県郡山市出身、郡山商業学校（現福島県立郡山商業高等学校）を卒業後、銀行に勤務するかたわら詩人として活動していた。応召後、志願して沖縄で任官、生徒たちの献身的な作業ぶりに感激し、「卒業式のために」と、この詩を贈ったのだった。楽譜は遺されていないが、沖縄戦を生き抜いた生徒たちによって歌い継がれた。採譜により現在、幾通りかの譜面が知られているが、東風平が書いた当初の形は分かっていない。

鉄の暴風のもと一切が失われた沖縄——東風平の遺品もすべてが焼き尽くされたが、彼を慕うある生徒がその写真を胸ポケットに秘め、戦中自身の命もろとも必死に守り抜いた。現在ひめゆり平和祈念資料館に掲げられるその遺影には、横に白く、折り皺の線が走っている。長くこの 1 点と思われていた東風平の肖像だが、本校大学史史料室が保管している戦前の写真数葉の中に、在学時の彼の元気な姿を確認することができる。

台本執筆にあたり、ひめゆり平和祈念資料館発行の資料集を始め、さまざまな刊行物、沖縄戦生存者の方々の証言などを参考にさせていただきました。また、東風平氏の御令妹・武富文子様からは、当時の貴重なお話をうかがうことができました。ご協力下さった皆様、ありがとうございました。（富士川記す）

トーク⑤ 東風平恵位～ひめゆり学徒隊と運命を共にした音楽教師

『消えた歌声 ひめゆりの別れ』～歌と朗読による

（富士川正美台本・演出）

女学生ヨシ 金持 亜実

女学生テル 林 眞美

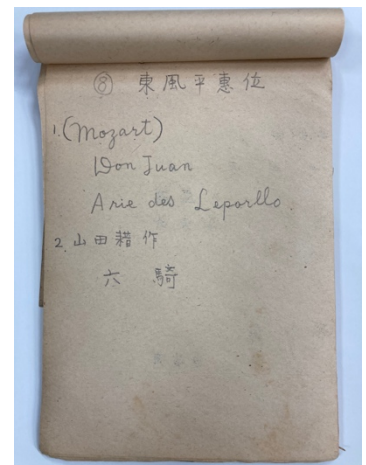
女学生トミ 本多 都

女学生ハル 河野 アンジェラ

太田少尉 中嶋 克彦

東風平先生 関口 直仁

ピアノ・オルガン：松岡 あさひ



M-8 東風平恵位《別れの曲》^{うた}（太田博詩／松岡あさひ編曲）

混声合唱

大学史史料室に遺されている文書

昭和 18 年 9 月の甲種師範科卒業試験で、演奏する独唱曲をあらかじめ申告した物。わら半紙に鉛筆書き、東風平の直筆と考えられる。別に遺された成績表で、この 2 曲を歌った東風平は、男女 54 人中 3 位の好成績だったことが分かる。（富士川記す）



東風平 恵位（こちんだ けい）

大正 11（1922）年 3 月 10 日、平良村（現沖縄県宮古島市）生まれ。昭和 18 年 9 月、東京音楽学校甲種師範科を繰上げ卒業後、沖縄師範学校女子部の音楽教師となる。昭和 20 年、看護要員として動員された生徒を引率（ひめゆり学徒隊）、6 月 19 日、米軍のガス弾攻撃により陸軍病院第三外科壕（現糸満市）にて殉職。

第4部 クロストーク「戦争の記憶を語り継ぐ～これからの課題」

ゲスト：海老名 香葉子（エッセイスト）

佐藤 道信（日本美術史・東京藝術大学美術学部教授）

中村 光博（NHK 社会番組部ディレクター）

報告者：都倉 武之、富士川 正美

司 会：橋本 久美子

第1部から第3部までの報告、演奏、朗読劇を受け、戦争の記憶をどのように語り継ぐか、そもそも語り継ぐことはできるのか、そこにどのような課題があるのかなどをテーマに、ゲストお三方に語り合ってください。

海老名香葉子氏の戦後は、空襲で家族6人を亡くした11歳の戦災孤児として始まりました。落語家林家三平の妻となり、今も林家のおかみさんとして采配を揮う一方、東京大空襲の慰霊碑を建立し「哀しみの東京大空襲」を主宰していらっしゃいます。日本近代美術史研究者の佐藤道信氏には2017年の「戦没学生のメッセージ」から継続的にご登壇いただいています。美校生たちは卒業すれば絵が描けなくなるという現実を前に、制作に打ち込みました。軍事教練に気が入らず、配属将校を殴り返す事件も起こしました。佐藤氏はそんな不器用な美術学校生にあたたかい眼差しを向けていらっしゃいます。戦争孤児の終戦直後からごく最近までを取材し続けた中村光博氏は、復興や経済成長の側面を強調する戦後史が、戦争孤児のように癒えない傷に苦しみ続けた人々の戦後を見落としてきたことを指摘し、今こそ彼らの戦後史を伝え、学ぶ時だと語っておられます。彼らが繰り出すトークの行方を見守りたいと思います。（H.K.）

展示について

ホワイエでは本日の演奏曲目と作曲者にちなむ展示を行います。慶應義塾大学経済学部の学生・河野宗明史料（河野喜代子氏より2014年に慶應義塾福澤研究センターへ寄贈）には手稿譜のほか、ドイツ語の音楽理論書 Hermann Wolff, *Kurzgefaßte allgemeine Musiklehre* を1冊書き写し、単語の意味を書き込んで勉強したノート、句集、写真、葉書などがあります。慶應義塾福澤研究センターのご厚意により貴重な原本を今回のため特別にお借りしています。

今回、手稿譜が残されているのは河野宗明のみです。戸田盛忠と岡田二郎の場合、手稿譜はなく出版譜が存在します。鈴木正三の場合は、原本の旋律に伴奏付けした川崎優の編曲版のみが現存します。したがって編曲版表紙の“春夏秋冬”のタイトルへの添え書き「中国戦線より愛する妻に」が誰の手によるものか定かではありません。英文タイトル「The Four Seasons」は編曲者が新たに加えた可能性が高いでしょう。東風平恵位の曲は教え子たちによって大切に歌い継がれてきましたが、東風平の令妹・武富文子様や東風平の関係者に聞き取りを行った鈴木伸章氏によれば、楽譜はもともと五線紙ではなく黒板に書かれ、生徒はそれをノートに写して練習したとのこと。彼らが生きた足跡とその時代を写真や各種資料によってご紹介いたします。（H.K.）

掲載の歌詞は作曲された譜面に準じたもので、原詩とは異なる場合があります。

岡田二郎《春》

(P. バルシュ詩／上田敏訳詩)

森は今、花さきみだれ
艶なりや、五月たちける。
神よ、擁護をたれたまへ、
あまりに幸のおほければ。
やがてぞ花は散りしほみ、
艶なる時も過ぎにける。
神よ擁護をたれたまへ、
あまりにつらき災な来ぞ。

岡田二郎《泉石》(北原白秋詩)

萌黄の月の眉引に、
鶴は啼くなり、土のうへ。
水に揺れあふ風のかげ、
花はこもらふひつじぐさ。
にほひをさなき泉石の
色のあひさにまじらへば、
蒼き夜ごろは賣くて、
ほのかなるものみな愛し。

狐色せるつゆ原の

中に巢を構む鳥なれば

しげみに嚴の尾を曳きて

あつまの野には出で入るか

雉よ

東風平恵位《別れの曲》(太田博詩)

目に親し 相思樹並木
ゆきかえり 去り難けれど
夢の如 疾き年月の
ゆきにけん 後ぞくやしき
学舎の 赤きいらかも
別れなば なつかしからん
吾が寮に 睦みし友よ
忘るるな 離り住むとも
業なりて 巢立つよろこび
いや深き 嘆きぞこもる
いざ去らば いとしの友よ
何時の日か 再び逢わん
微笑みて 吾等おくらん
すぎし日の 思い出秘めし
澄みまさる 明るきまみよ
すこやかに 幸多かれと
幸多かれと

戸田盛忠《ふるさとの》（三木露風詩）

ふるさとの小野の木立に
笛の音のうるむ月夜や
少女子は熱き心に
そば聞き涙ながしき
十年経ぬおなじところに
君泣くや母となりても

鈴木正三《春夏秋冬》（杉田好夫詩）

庭草の若芽の中にタンポポの
ゆさなに濡れて輝きて見ゆ
赤いぎくろに白い雲
去年のあなたの思い出は
あらい芭蕉の葉のしたで
メエメエ子山羊と遊んでた
風が吹く　風が吹く
十九のあなたは泣いていた
柿の実の、みのある小枝に夕日がさせば
万寿さげなり赤い花
二つ三つお辞儀する　お辞儀する
鐘の音に

つれづれに筆とれば母としるしぬ
いろりばた、ほだたきて
しばしたたずむ、みぞれ空　みぞれ空
ぬれた鳥にくれてゆく　くれてゆく

河野宗明《秋草》（佐藤春夫詩）

さまよひくれば　秋草の
一つ残りにて　咲きにけり
おもかげみえて　なつかしく
手折ればくるし　花散りぬ

河野宗明《花守の歌》（石川啄木詩）

夜はあけぬ　生の迎ひに心の住家、
園の門を明けむ　光よ花に培かへ
夢より夢の關据ゑて
孤境の園に花を守る

やはらぎの愛歌わたるや花の大波、
園にしらべ揺りて天なる夢の故郷
匂ひ海原さながらに
光と透きぬ孤境園

河野宗明《雉よ》（横瀬夜雨詩）

雲こそ飛べれ朝日さす
南の丘に巢守して
稀には空に羽うてど
たゝちに草にかへる鳥
雉よ

夕は山の蔭より
光眞青なる天国の
大野に行けと賺せども
地の草をのみ恋ふる鳥
雉よ



都倉 武之 Takeyuki TOKURA

昭和 54 (1979) 年生まれ。平成 14 (2002) 年慶應義塾大学法学部政治学科卒業。平成 19 年同大学院法学研究科満期単位取得退学。同年慶應義塾福澤研究センター専任講師。専門は近代日本政治史・政治思想史、メディア史。共編著に『近代日本と福澤諭吉』(共著、慶應義塾大学出版会、2013 年)、『1943 年晩秋 最後の早慶戦』(共編、教育評論社、2008 年)ほか。平成 25 年より「慶應義塾と戦争」アーカイブ・プロジェクトを開始。



富士川 正美 Masami FUJIKAWA

1966 年生まれ、東京藝術大学美術学部芸術学科卒業。在学中、藝術祭などでオペラを演出。卒業後は三百人劇場、オペラシアターこんにゃく座などで舞台スタッフとして経験を積み、現在は演劇や音楽劇の演出家として活動している。演出作品に歌劇「カルメン」(綾瀬でオペラを!の会)、「車のいろは空のいろ」(あまんきみこ作、調布市せんがわ劇場)、朗読劇「栄町ひめゆり会館」(自作、Pカンパニー)など。Pカンパニー所属、日本演出者協会会員。



海老名 香葉子 Kayoko EBINA

昭和 8 (1933) 年、東京本所生まれ。昭和 20 (1945) 年 3 月 10 日、東京大空襲により肉親と死別。昭和 27 年初代林家三平と結婚。昭和 55 年、三平亡き後、30 名の弟子を支えてマスメディアでも活躍。『うしろの正面だあれ』(1985)、『泣いて笑って頑張って』(1988)、『あした天気になあれ』(1990)等著作多数。平成 7 (1995) 年に初代林家三平資料館「ねぎし三平堂」を開く。平成 17 (2005) 年 3 月、上野公園内に慰霊碑及び平和の母子像を建立。東京都平和の日委員・東京都文化財ウィーク推進委員・東京動物園協会評議委員・東京都平和の日検討委員など歴任。



佐藤 道信 Doshin SATO

1956 年生まれ。東北大学修士課程修了後、板橋区立美術館、東京国立文化財研究所を経て、1994 年より東京芸術大学に勤務。この間、1985~86 年文部省在外研究員として米近代日本美術品を調査。「美術」概念、日本・西洋での日本美術(史)観のギャップを研究。主著に『〈日本美術〉誕生』(1996)、『明治国家と近代美術』(1999)、『美術のアイデンティティ』(2007)など。東京芸術大学美術学部芸術学科教授。



中村 光博 Mitsuhiro NAKAMURA

1984 年、東京都生まれ。2010 年、東京大学公共政策大学院修了後NHK入局。大阪局報道部、ニュースウォッチ9、国際番組部などを経て現在社会番組部ディレクター。クローズアップ現代+やNHKスペシャルなどを制作。主な担当番組にNHKスペシャル「都市直下地震 20 年目の警告」、「駅の子の闘い〜語り始めた戦争孤児〜」(2018 年度ギャラクシー賞・選奨受賞)、BS1スペシャル「戦争孤児〜埋もれてきた“戦後史”を追う」など。



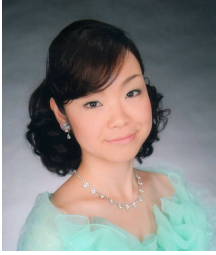
橋本 久美子 Kumiko HASHIMOTO

東京藝術大学音楽学部大学史史料室非常勤講師。東京藝術大学音楽学部楽理科および同大学院音楽研究科修士課程(音楽学)修了。『東京芸術大学百年史』の編集を経て、近現代日本に照らした東京音楽学校および東京藝術大学の再検証を行う。『ピアニスト小倉未子と東京音楽学校』(共著 2011)、乗杉嘉寿および戦時下音楽学校に関する論文等。日本アーカイブズ学会登録アーキビスト、NPO 法人日本アーカイブ協会認定デジタルアーキビスト。



大石 泰 Yutaka OISHI

慶應義塾大学経済学部を卒業後、日本教育テレビ(現テレビ朝日)入社。主に「題名のない音楽会」などの音楽番組を担当。2004 年テレビ朝日を退社、東京藝術大学演奏芸術センター准教授に就任。「藝大プロジェクト」「藝大とあそぼう」など、奏楽堂でのコンサートの企画・制作に携わり、2019 年 3 月に定年退職。現在は、音楽プロデューサーとして多くのコンサートの構成・演出を手がける。東京藝術大学名誉教授。平成音楽大学客員教授。



金持 亜実 Ami KANAJI (ソプラノ)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院音楽研究科修士課程および博士課程修了。博士号（音楽）を取得。J.S.バッハ『マタイ受難曲』、ヘンデル『メサイア』、ハイドン『天地創造』、モーツァルト『レクイエム』、ベートーヴェン『第九』等、宗教曲等のソリストとして多数出演する他、歌曲や声楽アンサンブルの演奏も積極的に行っている。第 24 回友愛ドイツ歌曲コンクール入選。東京藝術大学教育研究助手、慶應義塾女子高等学校講師。



中嶋 克彦 Katsuhiko NAKASHIMA (テノール)

福岡教育大学音楽科卒業。東京藝術大学大学院修士課程オペラ科修了。同大学院博士課程オペラ科修了、博士号取得。2012 年より文化庁在外派遣研修員としてドイツに留学、マインツ音楽大学にて研鑽を積んだ。新国立劇場や東京室内歌劇場、サントリーホールオペラアカデミー公演等、多くの舞台に出演するほか、宗教曲やオラトリオなど、コンサートのソリストとして国内外の主要オーケストラとの共演も多い。吉田浩之、佐々木典子、故・鈴木寛一の各氏に師事。



関口 直仁 Naohito SEKIGUCHI (バリトン)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。奏楽堂日本歌曲コンクール第 28 回歌唱部門入選。コンサートのほか、テレビ番組やポップス、TVCF のレコーディングにも参加。2012 年より株式会社クロスアートの経営に参画。またイベントや舞台への楽曲提供、コンサートのコーディネート、コーラスの指導など、幅広く活動している。声楽を、村松玲子、三林輝夫、福島明也の各氏に師事。



林 真美 Mami HAYASHI (ソプラノ)

京都市立音楽高等学校（現、京都市立京都堀川音楽高等学校）を経て、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院修士課程独唱科修了。第 6 回東京藝術大学奏楽堂企画『サーバ／周辺／世界—イプセン、グリーグ《パール・ギュント》による音楽劇』にソルヴェイグ役で出演。近年では、歌曲の初演演奏や、朗読コンサートを主催。保育士資格を取得し、親子を対象としたコンサートに出演する他、幼稚園、音楽教室にて歌の指導も務める。



河野 アンジェラ Angela KONO (ソプラノ)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。テレビ LCV 主催の子どものためのコンサート出演。岡幸二郎「ベスト・オブミュージカルVI」アンサンブルメンバー。音楽朗読劇 Reading High「El Galleon」コーラス隊。音楽劇「ヤマガヒ〜とうとう〜」ヘビ役、オペラ「フィガロの結婚」バルバリーナ、「コジ・ファン・トゥッテ」デスピーナを演じる。合唱指導、ボイストレーニング、CM 出演など幅広く活動している。声楽を牧野美紀子、寺谷千枝子、押見朋子に師事。



本多 都 Miyako HONDA (メゾソプラノ)

東京藝術大学声楽科卒業。卒業時にアカンサス音楽賞、同声会賞を受賞。同大学院声楽(オペラ)専攻修了。オペラ《コジ・ファン・トゥッテ》ドラベッラ役や、さまざまな宗教曲にアルトソリストで出演。近年では『ユーリ!!! on Concert』にコーラスメンバーとして出演や、イベントの司会など、クラシック以外にも活動の場を広げている。二期会会員。

©Taira Tairadate



松岡 あさひ Asahi MATSUOKA (ピアノ)

幼少より音楽家の両親からピアノ・作曲を学ぶ。東京藝術大学音楽学部作曲科首席卒業。アカンサス音楽賞、同声会賞受賞。同大学院音楽研究科修士課程作曲専攻修了。2011 年奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第 1 位。2012 年より文化庁新進芸術家海外研修員として、ドイツ・シュトゥットガルト音楽演劇大学に 2 年間留学し、作曲とオルガン演奏法を学ぶ。現在、東京藝術大学演奏芸術センター特任准教授。

表紙の作品について

久保克彦（大正 7（1918）年 9 月 5 日-昭和 19（1944）年 7 月 18 日）の卒業制作。《図案対象》は 5 画面から成る幅 7 メートルを超える大作で、表紙はその中心に位置する第 3 画面である。久保は昭和 13（1938）年 4 月、東京美術学校工芸科図案部予科に入学し、昭和 17（1942）年 9 月、修業年限 6 ヶ月短縮で本科を卒業した。久留米の予備士官学校に入校し、昭和 19（1944）年 4 月末に見習士官として大陸に渡り、7 月、中国湖北省で戦死した。
（H.K.）

「I LOVE YOU」プロジェクト・メンバー

橋本 久美子（音楽学部大学史史料室、申請代表者）

大石 泰（東京藝術大学名誉教授、企画・制作）

嘉村 哲郎（芸術情報センター助教、Web 発信）

佐藤 道信（美術学部芸術学科教授、美術学校関係統括）

仲辻 真帆（音楽学部大学史史料室教育研究所助手、資料調査・展示・庶務）

鎌田 紗弓（音楽学部大学史史料室教育研究所助手、資料調査・展示・庶務）

松岡 あさひ（演奏芸術センター特任准教授、演奏・楽譜浄書）

八反田 弘（演奏芸術センター教授、統括）

スタッフ

企画：橋本 久美子 構成：大石 泰 演出：富士川 正美（朗読劇『消えた歌声 ひめゆりの別れ』）

音楽：松岡 あさひ ステージマネージャー：小宮山 雄太 舞台監督：浜田 和孝

照明：藤原 泰弘 映像：植村 真、水本 紗恵子 記録：進藤 綾音

音響：岩崎 真 録音：山田 香、東 英絵 録画：千葉 大雅、志野 文音

チラシデザイン・プログラム題字：上野 綾夏 プログラムデザイン：鎌田 紗弓

史料デジタル化・展示補助：鄭 曉麗 英文コンテンツ：コリー・シュムコー

制作：東京藝術大学演奏芸術センター（楠田 健太、阿南 一徳、丹野 理佐）

東京藝術大学音楽学部大学史史料室（仲辻 真帆）

協力者（敬称略）

五十嵐 康祐、岡田 晋輔、川崎 雅司、川崎 雅哉、黒田 和子、武富 文子、鈴木 和美、鈴木 伸章、日高 三美子、渡邊 信一

協力機関

慶應義塾福澤研究センター（資料提供）

ひめゆり平和祈念資料館（写真提供）

編集・発行：2020 年 12 月 6 日（日）

東京藝術大学音楽学部大学史史料室

<https://archives.geidai.ac.jp/>

※無断転載・複写・引用等を禁じます